

報道関係者 各位

2023 年 2 月 1 日

公開講演会「『目に見えないもの』と生きる ——食からみたヒトと微生物のかかわり」

2023 年 3 月 31 日(金)オーバルホール(梅田)にて開催！

国立民族学博物館(大阪府吹田市千里万博公園10-1)では、公開講演会「『目に見えないもの』と生きる——食からみたヒトと微生物のかかわり」を2023年3月31日(金)にオーバルホール(大阪市北区梅田3-4-5毎日新聞大阪本社ビルB1F)にて開催します。

※新型コロナウイルス感染症の予防のため、講演会を変更・中止する場合がございます。予めご了承ください。

【趣旨説明】

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行は、私たちの生が「目に見えないもの」との関係において成り立っていることを如実に示すこととなりました。ただし、私たちがともに生きる「目に見えないもの」は、感染症を引き起こすウイルスに限りません。たとえば、ヒトの身体には腸内細菌を始めとして多くの微生物が暮らしています。この微生物叢は、私たちの社会が、どのような植物や動物、そして多様な「目に見えないもの」といかなる関係を築いてきたかによって変化しうるものです。また、私たちにとっても身近な発酵という作用は、有機物を分解する微生物の働きです。私たちはこれを利用して様々な食品を作り、それらを食べて体内の微生物叢との関係を築いてきました。このように、ヒトと微生物との多様な関係は、環境と文化によって複合的に作られたものだといえます。

本講演会では、食を切り口に、私たちの生がいかに微生物とのかかわり合いのうえに成り立っているのか、またその関係性がいかに変化してきたのかを具体的な事例をもとにお話しします。そして、こうした「目に見えないもの」を含む人間以外の存在に着目し、その多様な関係性を探っていくことが、今後の私たちの社会を考えるうえでいかに重要なのかを考えていきます。

「目に見えないもの」と生きる——食からみたヒトと微生物のかかわり

参加費 無料 (無料申込済)

2023.3.31(金)

18:30~20:45(17:30開場)

場所 オーバルホール
大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞大阪本社ビルB1

定員 480名(先着順)
※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更の可能性がございます。
※平路通訳あり

【趣旨説明】「目に見えないもの」と人類社会

奈良 雅史(国立民族学博物館 准教授)

【講演1】人類と微生物の共生：パプアニューギニア高地の事例

梅崎 昌裕(東京大学 教授)

【講演2】発酵文化人類学：微生物から見た社会のカたち

小倉 ヒラク(発酵デザイナー)

【コメント】見えないものから見直す食の意味

宇田川 妙子(国立民族学博物館 教授)

【パネルディスカッション】

【パネリスト】 奈良 雅史×梅崎 昌裕×小倉 ヒラク×宇田川 妙子

【公開講演会とは】

先端的な研究活動を取りあげ、その成果を社会に積極的に還元するとともに、文化人類学・民族学を通じての異文化理解と、広く本館が学術研究機関であることの認識を一般市民に深めてもらうことを目的として、東京と大阪において実施しています。

今年度は、2022年11月11日(金)に日経ホール(東京)にて「『民族』再考——日本と台湾から」を実施しました。

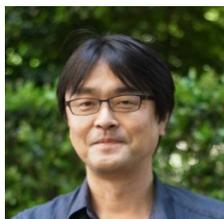
【プログラム】

17:30	開 場	
18:30 - 18:35	開 会	鯨岡 秀紀(毎日新聞大阪本社編集局長)
18:35 - 18:40	挨拶	吉田 憲司(国立民族学博物館長)
18:40 - 18:55	趣旨説明	奈良 雅史(国立民族学博物館 准教授) 「『目に見えないもの』と人類社会」
18:55 - 19:25	講 演 1	梅崎 昌裕(東京大学 教授) 「人類と微生物の共生:パプアニューギニア高地の事例」
19:25 - 19:55	講 演 2	小倉 ヒラク(発酵デザイナー) 「発酵文化人類学:微生物から見た社会のカたち」
19:55 - 20:10	休 憩	
20:10 - 20:45	コメント	宇田川 妙子(国立民族学博物館 教授) 「見えないものから見直す食の意味」
	ディスカッション	奈良 雅史×梅崎 昌裕×小倉 ヒラク×宇田川 妙子
20:45	終 了	

【登壇者プロフィール】

**奈良 雅史(国立民族学博物館 准教授)**

専門は文化人類学、中国研究、イスラーム地域研究。中国、台湾においてムスリム・マイノリティの宗教実践と自律性のあり方について調査研究を行う。主な著作として『現代中国の〈イスラーム運動〉：生きにくさを生きる回族の民族誌』（風響社）、『モノとメディアの人類学』（ナカニシヤ出版、共編著）などがある。

**梅崎 昌裕(東京大学 教授)**

専門は人類生態学。パプアニューギニア高地人の「低タンパク質適応」に興味をもち、腸内細菌叢の栄養機能を研究してきた。近年は、ラオス山岳地帯の少数民族、インドネシアのスンダ人との比較研究を実施している。主な著作として『微生物との共生：パプアニューギニア高地人の適応システム』（京都大学出版会）などがある。

**小倉 ヒラク(発酵デザイナー)**

早稲田大学で文化人類学、東京農業大学で研究生として発酵学を学んだ後、「見えない微生物の働きをデザインの手で見えるようにする」ことを目指し活動開始。『てまえみそのうた』でグッドデザイン賞 2014 受賞。海外でも発酵の伝道師として活動、ラジオ、テレビでも活躍。著書として『発酵文化人類学』『日本発酵紀行』などがある。下北沢発酵デパートオーナー。

**宇田川 妙子(国立民族学博物館 教授)**

専門は文化人類学、ジェンダー研究。イタリアのローマ近郊等で1980年代後半から断続的に現地調査を行い、主に家族やジェンダーの観点から研究している。近年では食と地域社会のかかわりについても関心を持つ。主な著書として『城壁内からみるイタリア』（臨川書店）などがある。

【開催概要】

講演名	公開講演会「『目に見えないもの』と生きる——食からみたヒトと微生物のかかわり」
日時	2023年3月31日(金) 18:30～20:45(開場17:30)
会場	オーバルホール(大阪市北区梅田3-4-5 毎日新聞大阪本社ビルB1)
定員	480名(要事前申込み/先着順/無料) ※手話通訳あり
ライブ中継	本講演は会場内のほか、WEBライブ中継(要事前申込み/定員なし/無料)でも参加いただけます。
主催	国立民族学博物館、毎日新聞社

【申込み方法】

申込方法

会場へ参加ご希望の場合もライブ中継参加ご希望の場合も、国立民族学博物館のホームページ内にある申込フォーム画面に従って必要事項をご入力ください。

* 参加申込をいただいた方の個人情報は本講演会でのみ使用いたします。

<https://www.minpaku.ac.jp>
2023年2月13日(月)受付開始予定

問合せ先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1
国立民族学博物館 研究協力課
TEL 06-6878-8209 メールアドレス koenkai@minpaku.ac.jp

[プレスリリースに関するお問合せ] 国立民族学博物館 総務課 広報・IR係
電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail: koho@minpaku.ac.jp
プレス向けウェブサイト www.minpaku.ac.jp/press